

Q&A 貿易・外為に関する経営者の疑問を解消しよう

南川 善光

まずは、貿易取引・外為の基本についてQ&A形式で解説する。取引先から質問された際にしっかりと答えられるよう再確認しておこう。

貿易取引をする場合
決済手段には
どんなものがあるの？

Q1



A 輸入代金の支払方法は、送金による支払いと、荷為替手形による支払いの2通りがある。

1. 送金による支払い

送金による支払いには、送金小切手(クリーン・ビル)による支払とT/T(電信送金)ベースの二つの方法がある。送金小切手は偽造変造の問題等により貿易取引で用いられることは減っており、送金による支払いといえばT/Tベースを指すのが一般的である。T/Tベースによる送金決済

は、売買契約書で定めたタイムリミットで輸入者が取引銀行を経由して輸出者の海外の口座宛てに外国送金をする方法で、輸送手段の多様化・迅速化とともに年々増加している。

送金による決済では与信行為は発生しない

外国送金は顧客(送金依頼人)との委任契約であるため、内国為替取引と何ら変わることはない。つまり、T/Tベースの輸入取引について金融機関の与信行為は発生しない。

ただし、輸入者は輸入した製商品を国内で販売して資金を回収するため、商品仕入資金等の運転資金需要が発生する可能性はある。したがって、取引先が多額の送金による輸入品の仕入れを行う場合には、商品の販売状況を常にチェックし、資金繰りをモニタリングしておく必要がある。以下、T/Tベースのメリットとデメリットを挙げる。

①メリット

銀行の窓口で専用の「送金依頼

書」に記入するだけで手続きが終了する。またインターネットでの申込みを受け付ける銀行も増加しており、通常は数日で相手方の口座に入金になるなど、手続きが簡単で先方への着金もスピーディーなことが特徴である。

外国送金のための費用として送金手数料がかかるが、通常はL/C(信用状)ベースでの支払いに比べて半分程度で済むことが多い。なお決済方法によっては、さらに電信料、郵便料、取扱手数料等が必要になる場合もある。

②デメリット

T/Tベースによる輸入取引は、資金を前払いするか後払いするかによって輸入者・輸出者のリスクが変わってくる。

・輸入者…前払いの場合は、代金を支払ったのに輸出者から契約どおりの船積みが行われない(または製商品が異なる、数量が足りない、品質が異なる、納期に遅れる等)のリスクがある

・輸出者…後払いの場合には、契約どおりに船積みしたにもかかわらず、輸入者から支払いが行われ

ないリスクがある

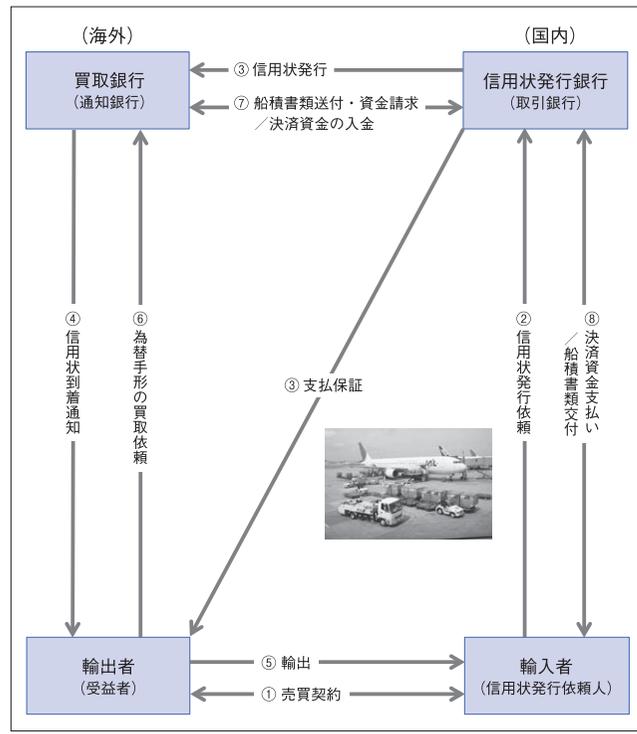
輸出代金取立のために荷為替手形を振り出す

2. 荷為替手形による支払い

荷為替手形とは、輸出者(売主)が代金回収を確実に行うため、輸入者(買主)を名宛人、輸出者の取引銀行を受取人として振り出した為替手形で、船荷証券などの船積書類が添付される。つまり

輸出者の取立委任を受けた海外払い(B/Cベース)輸出者の取立委任を受けた海外

●L/C付き荷為替手形による支払いの流れ



の仕向銀行から船積書類を添付した「L/Cなしの荷為替手形」が、輸入地の被仕向銀行(日本の輸入者の取引銀行)に送付される。被仕向銀行は取立依頼に基づいて資金請求を行い、輸入者からの資金受領と引き換えにB/L(船荷証券)を含めた船積書類を輸入者に渡し、輸入者は船会社から荷物を引き取るにより終了する。つまりB/Cベースとは、銀行を経由した取立取引(Bills for Collection)に他ならない。

B/Cベースには、書類引渡条件によって「支払渡し(D/P: Documents against Payment)」と「引受渡し(D/A: Documents against Acceptance)」の2種類がある。

L/Cベースでの取引を行うには、取引銀行から信用状発行に伴う与信行為を受ける必要があるため、創業から日が浅い企業や小規模事業者にはL/Cの利用はなかなか難しい局面もある。このような場合に、与信行為を伴わないB/Cベースの輸入取引が用いられることが多い。

POINT

- 貿易取引の資金決済手段には、大きく分けて「送金」と「荷為替手形」による支払いの2通りがある
- 送金は電信によるものが主流で、荷為替手形を利用する場合は信用状(L/C)が広く用いられている